

II 特別シリーズII

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第131回

岩手大学の活動報告



吉澤正人
(岩手大学理工学部・研究
高度化・グローバル化特別
対策室長)

中国、モンゴルから10名を招聘、
メディア系技術の基礎理論等研修

・プログラムの概要

2017年11月10日から11月17日の8日間、アジアの2か国(中国、モンゴル)の4大学(西北農林科技大学、モンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学、モンゴル人文大学)より大学生・大学院生合計10人を岩手大学理工学部へ招聘しました。

本プログラムのテーマである「最先端のデジタルコンテンツ&メディアテクノロジーを体験しよう!」を元に、本学が高い技術を有する最新のデジタルコンテンツ制作や、それを支える基盤技術であるメディア系技術、さらにメディア系技術の基礎理論に関連する情報数理についての学びを体験しました。

初めに、芸術科学会が主催するCGやマルチメディア分野に関する研究集会としての長い歴史を持つ NICOGRAPH 2017に参加しました。今回の招聘学生は、ソフ



NICOGRAPH2017に参加



招聘学生による発表会

また、それらの体験や課題をまとめた成果発表会を後日行いました。発表会では、はじめ招聘学生の皆さんは緊張していた様子でしたが、会が進むにつれリラックスし落ち着いて発表しており、証書授与が行われ、皆

その後、数名ずつのグループに分かれて、各研究室においてデジタルコンテンツ制作のための基礎技術に関する実験や課題を下記のとおり行いました。

プログラム	
1日目	盛岡到着 オリエンテーション
2日目	芸術科学会主催 研究集会NICOGRAPH2017参加
3日目	芸術科学会主催 研究集会NICOGRAPH2017参加 盛岡市内見学
4日目	講演会 研究分野別ごとに研究室での議論 交流会
5日目	研究分野別ごとに研究室での議論
6日目	研究分野別ごとに研究室での議論 招聘学生と本学学生による議論結果の発表会
7日目	研究施設訪問(日本科学未来館)
8日目	成田空港から帰国

トウエア系学生が多かったため、最新のVR(バーチャルリアリティ)・AR(拡張現実)のセッションなどを興味深く聞いているようでした。

その後、数名ずつのグループに分かれて、各研究室においてデジタルコンテンツ制作のための基礎技術に関する実験や課題を下記のとおり行いました。

各研究室では、対象物をデジタルカメラで撮影して3次元モデルの生成やそのモデルを用いて3Dプリンタによるモデル製作体験、プロダクトデザインの講義と日本の伝統的タンスや鉄器などの実物の見学、生体センシング技術の講義と電子回路を用いた心電計の作成と心電図の計測、ランダムグラフ理論や非線形時系列モデルのメディア系技術への応用の講義およびシミュレーションの体験を行いました。これらの実習は日本人学生や本学の留学生と共に実施され、国際交流を含んだ良い体験となったと思います。



メディア情報コース研究室で



講演会後の記念写真



交流会の一コマ



日本科学未来館訪問

さんの喜んだ笑顔写真を収めることができました。

最後に、東京へ移動して日本科学未来館を訪問し、招聘学生の皆さんは、日本の様々な最先端の科学技術を興味深く見ていました。また、最新の人型ロボット、宇宙・地球・生命の展示などに興味を持ち、特にヒューマノイドロボット・アシモによる実演では歓声を上げながら多くの写真を撮っていました。

・交流の成果(参加学生の感想)

招聘学生からは、多くの新しい経験ができた、多くの新しい友達ができ、日本は科学技術の先進国であり環境の良さを感じた、また日本に来たいなどの感想を聞くことができました。短い時間ではありましたが、学会に参加したり、研究室での体験をしたり実際のデジタルコンテンツに触れ体験することができたことで、招聘学生にとっては大変印象深い滞在になったと思います。

また、滞在中に訪れたビュッフェ形式の日

本食レストランでは、モンゴルや中国とは異なる料理に非常に興味を持った様子で、数回おかわりをしながら、本来の食べ方や日本のマナーについての質問や、使われている食材や味付けについて多くの質問をしていました。また、自国の食べ物や料理などについての話や、その他にも日本人の時間の正確さに驚いたこと、盛岡の自然と建物が共存している街並みについて感じたことなどを聞かせてくれました。

本学の日本人学生からは、今回のプログラムに参加し国際交流することで、外国の友人ができたり、苦手意識ある英語に対する不安を払拭できたりと、非常に良い経験をすることができたとの感想が聞かれました。

・将来の課題と展望

本学は、今回で4回目目のさくらサイエンスプランの実施となりました。受け入れる私たち教職員も回数を重ねるたびに徐々に進行に慣れてきた面もあり、招聘学生や本学学生のための事前準備や当日の対応をよりスムーズに進行することができたと思っております。

そして中身の充実した交流プログラムを実施することができたことと、これまでに招聘した学生のうち2名が、現在岩手大学に留学中であり、10月にはさらに2名が本学へ留学する予定になっております。このことはさくらサイエンスプランの大きな成果と考えています。

今回4回目目のプランの実施にあたり、JST関係者をはじめ多くの方々のご協力を賜りまして熱く御礼を申し上げます。

岩手大学理工学部はこれからも国際交流の推進とその継続に力を注ぎたいと考えており、今後も様々なプログラムに応募し、学生たちの国際教育に寄与するべくグローバル人材の育成を図っていく所存です。